

令和元年度 第1回いしかわ森林環境基金評価委員会 次第

日時：令和元年8月9日（金）10時30分～

場所：県庁行政庁舎14階1408会議室

1 開 会

2 農林水産部次長あいさつ

3 議 事

- (1) いしかわ森林環境基金事業の概要
- (2) 平成30年度の取組実績報告
- (3) 令和元年度の事業計画

令和元年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会出席者名簿

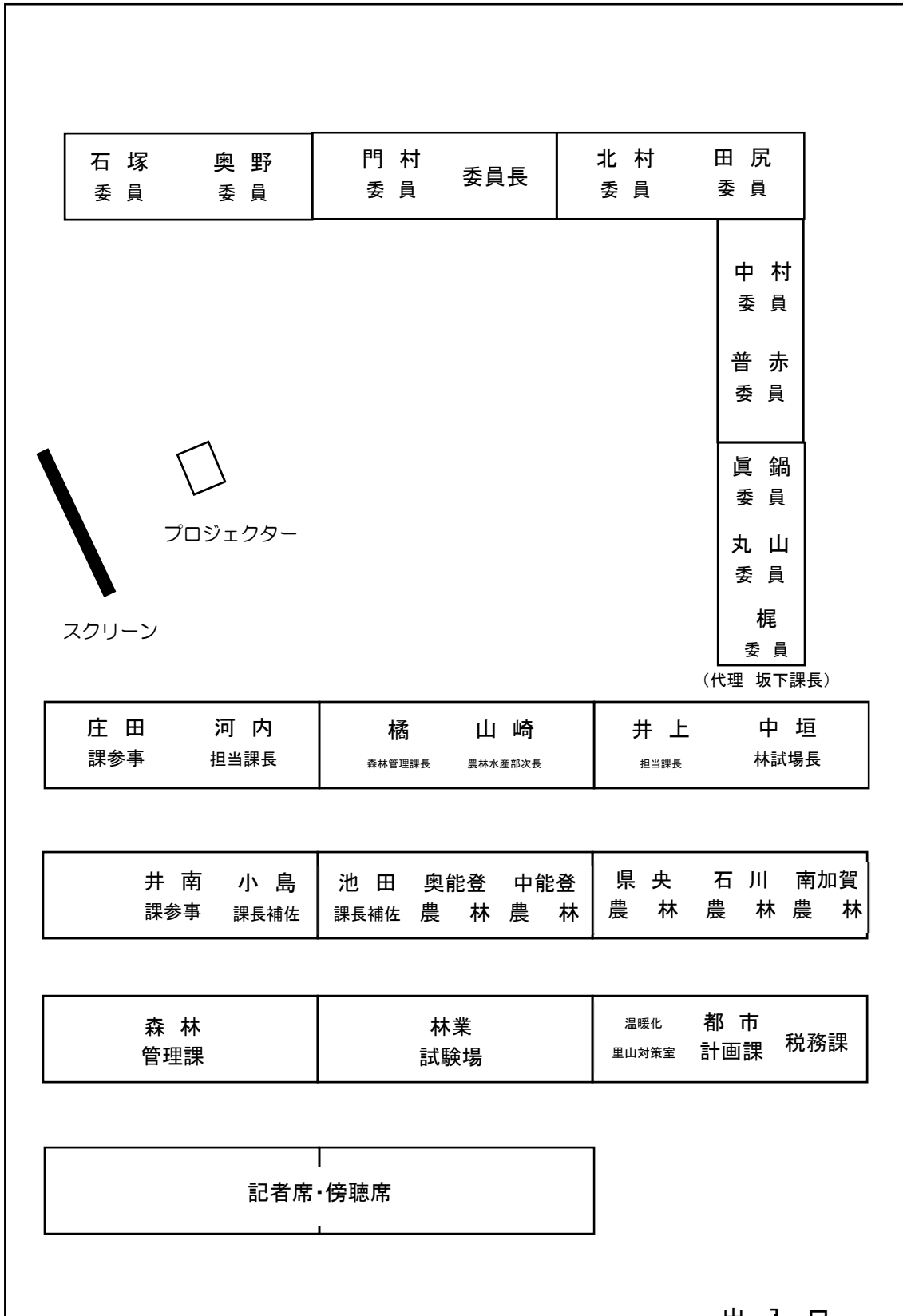
氏名	役職等	備考
石塚 和美	石川県社会福祉協議会保育部会 保育士会会長	
奥野 美彌子	みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会会長	
梶 文秋	輪島市長	代理 農林水産課長 坂下 正浩
門村 和永	石川県森林組合連合会 代表理事会長	
北村 祐子	石川県商工会女性部連合会 副会長	
田尻 純江	石川県建築士会 理事・副会長	
中村 浩二	金沢大学名誉教授	
西野 茂	石川県町会区長会連合会 会長	欠席
能木場 由紀子	石川県婦人団体協議会 会長	欠席
普赤 清幸	石川県商工会議所連合会 専務理事	
眞鍋 知子	金沢大学 教授	
丸山 利輔	石川県立大学参与	
(12名)		

(敬称略：五十音順)

令和元年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会座席表

令和元年8月9日(金)

県庁行政庁舎14F 1408会議室

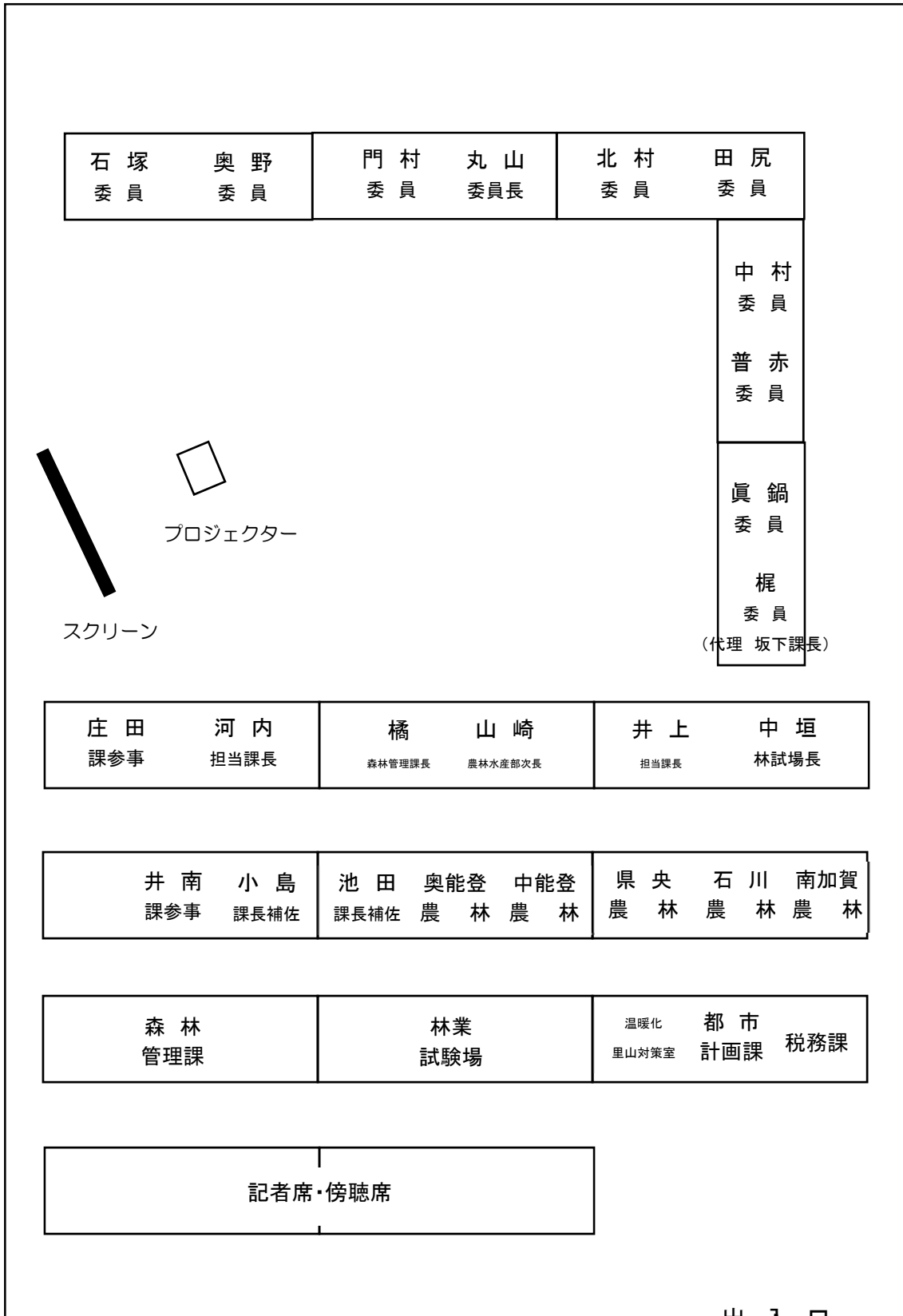


令和元年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会座席表

(委員長選任後)

令和元年8月9日(金)

県庁行政庁舎14F 1408会議室



いしかわ森林環境基金評価委員会 設置要綱

(設置目的)

第1条 いしかわ森林環境基金条例（石川県条例第41号）第1条に定める「いしかわ森林環境基金」（以下「基金」という。）を財源とした事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性について検討するため、「いしかわ森林環境基金評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、もって、同事業の透明性の確保と県民の理解増進にも資する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次の事項について検討する。
(1) 事業実績及び事業成果等の検証・評価に関すること
(2) 事業の継続や見直しの必要性に関すること
(3) その他事業の推進に関すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、市町長及び学識経験者、経済、社会教育、県民・消費、農林水産関係団体の有識者からなるものとし、別紙のとおりとする。
2 委員会に委員長を置くものとし、委員の互選により選出する。
3 委員長は、会務を総理し、委員を代表する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2 委員の再任は、妨げない。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長は委員長があたる。
2 委員長に事故があるときは、委員長が指名する委員がこれを代行する。
3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
4 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
5 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、委員長の決するところとする。

(議事内容の公表)

第6条 委員会は、原則として公開により実施し、議事内容は、議事要旨により公表する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、石川県農林水産部森林管理課において行うものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は委員会で定めるものとする。

附則

この要綱は、平成20年6月9日から施行する。
一部改正 平成24年4月2日



いしかわ森林環境基金事業の概要

○ いしかわ森林環境基金事業の取組経緯について

県土の約7割を占めている森林は、木材を供給するだけでなく、土砂災害を防止し、豊かな水を育み、二酸化炭素を吸収して地球の温暖化防止に貢献するなどの機能をもっており、これら多面的な機能は、森林を健全な状態に保つことによって、はじめて安定的に発揮されるものであり、その恩恵は森林所有者や林業関係者に限らず、広く県民に及ぶものである。



※石川県の森林が有している公益的な機能をお金に換算すると、年間1兆1,350億円にもなり、県民一人あたりが森林から受ける恩恵は、年間約100万円になると試算。

しかしながら、木材価格の低迷や山村の過疎化・高齢化等により森林の手入れが適切に行われなくなったことで、林内が暗くなり下草が生えず、土壌の流出が進むなど、森林の公益的機能が低下し、県民生活や自然環境に様々な影響を及ぼすことが懸念されている。



※林内が暗く、下草が生えない
手入れ不足の人工林



※人家を覆うように繁茂した
放置竹林

そのため、平成16年から2年余りの検討が重ねられ、平成18年11月に「いしかわの森づくり検討委員会報告書」として、すべての森林の整備を林業関係者の自助努力に委ねることには限界があるという認識の下、社会全体で森林を支えていく新たな制度を構築していく必要性が確認された。

こうした報告書を踏まえ、森林の公益的機能を早期に回復させることを目的として、「いしかわ森林環境税」を平成19年度から開始し、この税を活用して、積極的に森林の手入れ等が行われている。

いしかわ森林環境税の概要

課税方法	県民税均等割の超過課税(均等割額に一定額を上乗せして課税)
対象者	【個人】県内にお住まいの方等(対象:約60万人) ※一定以上の所得のある方 【法人】県内に事務所、事業所を持っている法人等(対象:約3万社)
税額	【個人】年額;500円 【法人】年額;1,000円~40,000円(県民税均等割の税率の5倍相当額)

○ いしかわ森林環境基金評価委員会（平成20年度～）

検討事項

- ① 毎年度、「いしかわ森林環境基金」を財源とした事業の実績及び成果等の検証・評価、報告
- ② 「いしかわ森林環境基金条例」改正時（5年毎）や情勢の変化があったときなど必要に応じて、事業の継続や見直しについて検討、報告



○ いしかわ森林環境基金事業における新たな取組の変遷

第1期(H19～23)

いしかわの森づくり検討委員会報告書
(H18. 11)

- ・森林の公益的機能を維持するため、水源地域等の手入れ不足人工林について、まずは重点的に整備
- ・県民に対する森林の現状や、森林整備の取組等についての普及啓発や情報提供に努めるほか、県民参加の森づくりを推進



間伐がされず、林内が暗くなり、下草が生えないことで、保水力などの機能が低下

第2期(H24～28)

いしかわ森林環境基金評価委員会報告書
(H23. 11)

- ・手入れ不足人工林に侵入する竹の除去が必要であり、間伐と併せ侵入竹の除去を実施
- ・里山林の緩衝帯整備をモデル的に実施。
- ・県産材製品を人目に付く場所に設置することなどにより税事業の周知度を向上



人工林内に竹が侵入して樹木を覆い、放置すると人工林が枯死

第3期(H29～R3)

いしかわ森林環境基金評価委員会報告書
(H28. 11)

- ・侵入竹の発生源となっている放置竹林の解消
- ・野生獣の出没を抑制するため、集落周辺の緩衝帯整備を実施
- ・森林の適切な整備のため、木材利用に対する理解を深める取組を実施



過密化した里山林で藪の刈払などを実施し、野生獣との緩衝帯を確保 5

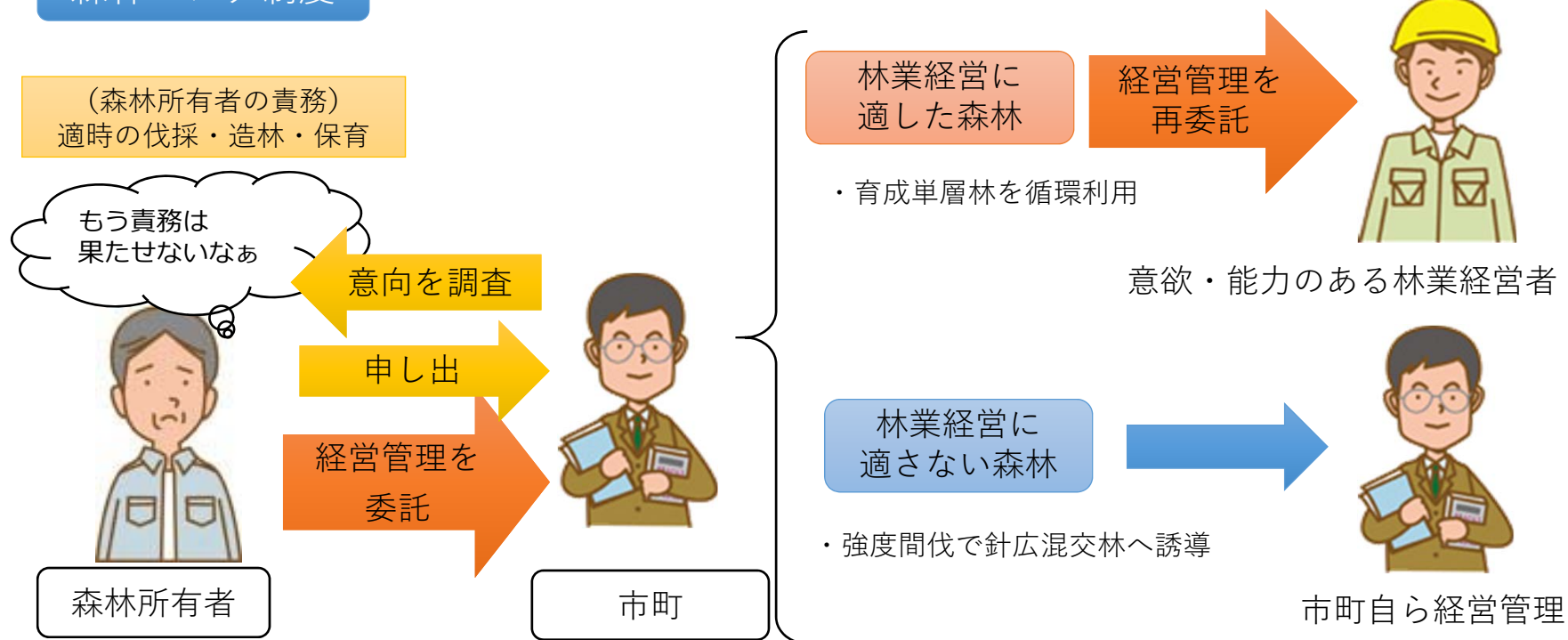
○ いしかわ森林環境基金事業の取組内容の変遷

区分		第1期(H19~23)		第2期(H24~28)		第3期(H29~R3)
		計画	実績	計画	実績	計画
手入れ不足 人工林の整備	強度間伐	10,000ha 1,650百万円	10,550ha 1,659百万円	7,000ha 1,250百万円	3,000ha 653百万円	1,500ha 450百万円
	利用間伐			4,600ha -	6,500ha -	
侵入竹の除去				550ha 400百万円	701ha 930百万円	
放置竹林の除去						600ha 1,060百万円
緩衝帯整備						300ha 165百万円
県民の理解増進と県民参加 による森づくり(普及啓発)		183百万円	58,234名 139百万円	183百万円	68,646名 191百万円	185百万円

○ 森林・林業を取り巻く情勢の変化

平成30年5月に森林経営管理法が成立し、市町が主体となって手入れ不足人工林の整備をすすめる新たな森林管理システム、いわゆる森林バンク制度が平成31年4月より開始

森林バンク制度



また、市町による森林バンク制度の財源として、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律が平成31年4月から施行

森林環境税[平成36年度から課税]	
対 象 者	国内に住所を有する個人
税 額	【個人】年額; 1,000円
森林環境譲与税[平成31年度から譲与]	
譲 与 額	森林環境税の収入額(全額)に相当する額
譲 与 先	市町 及び 都道府県
使 途	市 町: 間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用 都道府県: 森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用

令和元年度以降、手入れ不足人工林の強度間伐は、
国の森林環境譲与税を財源とした市町による整備に移行




○ いしかわ森林環境基金事業の見直しによる新たな取組(令和元年度～)

手入れ不足人工林の整備を着実に進め成果をあげてきた一方、いしかわ森林環境基金事業創設後10年間で2,000ヘクタールの新たな手入れ不足人工林が発生、今後は、従来の方策に加え、手入れ不足人工林の発生を未然に防ぐ対策が必要

戦後造成された人工林資源が成熟し、木材として利用可能な段階に移行してきている中で、木材利用の促進により、経済林における間伐を促進し、手入れ不足人工林の発生を未然に防ぐことで、森林の有する水源かん養や土砂流出防止機能等の公益的機能を持続的に発揮させることが重要

平成30年6月には、県産材の利用促進に関する施策を総合的に推進し、森林の有する多面的機能の発揮と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的として、議員提案による「石川県県産材利用促進条例」が全会一致で可決

こうした状況を踏まえ、令和元年度から手入れ不足人工林の発生を未然に防ぐため、いしかわ森林環境税を財源とした県産材利用促進対策を新たに追加

区分	いしかわ森林環境基金事業				第3期 (H31～R3:計画)
	第1期 (H19～H23)	第2期 (H24～H28)	第3期 (H29～H30)		
手入れ不足人工林の整備	○ 10,550ha	○ 9,500ha	○ 300ha/年	国譲与税による整備 	— 300ha/年
竹林の除去	—	○ (侵入竹) 675ha	○ (放置竹) 120ha/年	県環境税による整備を継続 	○ 120ha/年
荒廃した里山林における緩衝帯の整備	—	—	○ 60ha/年		○ 60ha/年
県産材利用の促進	—	—	—	県環境税の新たな使途 	○ (追加)

※ 詳しい内容については、平成30年いしかわ森林環境基金評価委員会報告書をご覧ください。
URL : https://www.pref.ishikawa.lg.jp/shinrin/kikaku/documents/h30_hyouka_houkoku.pdf



いしかわ森林環境基金事業の平成 30 年度の実績

I 森林整備事業

県民共有の財産である森林を健全な姿で次の世代に引き継いでいくため、森林の公益的機能の維持・増進を図る施策を実施。

■平成 30 年度の事業費内訳

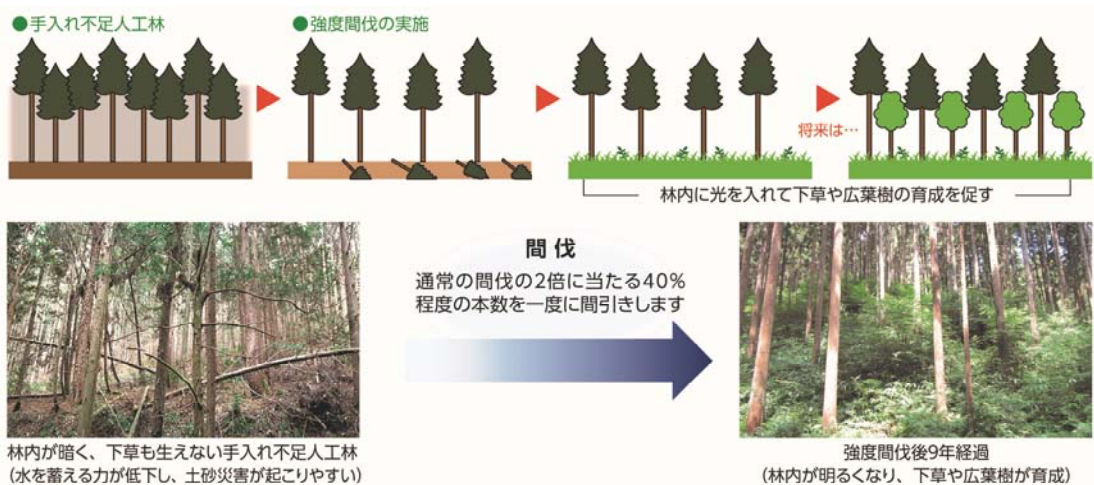
単位：千円

項目	事業内容	事業費	事業費の内訳	
			国庫補助金	基金
環境林整備事業	・強度間伐 ・放置竹林の除去等 ・緩衝帯の整備	467,800	143,151	324,649

(1) 手入れ不足人工林の強度間伐の整備計画と実績

林業採算性の悪化や山村の過疎化等により、整備がされず公益的機能が低下した人工林（手入れ不足人工林）の機能を回復するため、通常の間伐の2倍程度にあたる40%以上の本数を一度に間引きする間伐（強度間伐）を実施。

令和元年度からは、新たに導入された森林環境譲与税を活用し、市町が主体となって森林経営管理制度による整備を予定。



単位：ha

項目		第3期					計
		H29	H30	R1	R2	R3	
強度間伐	計画	300	300	300	300	300	1,500
	実績	398	330	市町の森林経営管理制度に移行			728

※H30 実績は見込

■強度間伐の実施状況（中能登町水白 地内）

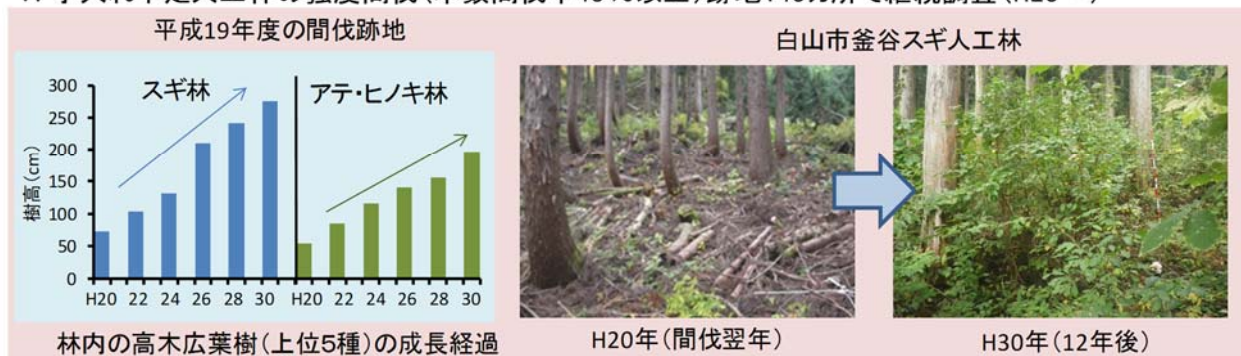


■林業試験場によるモニタリング結果

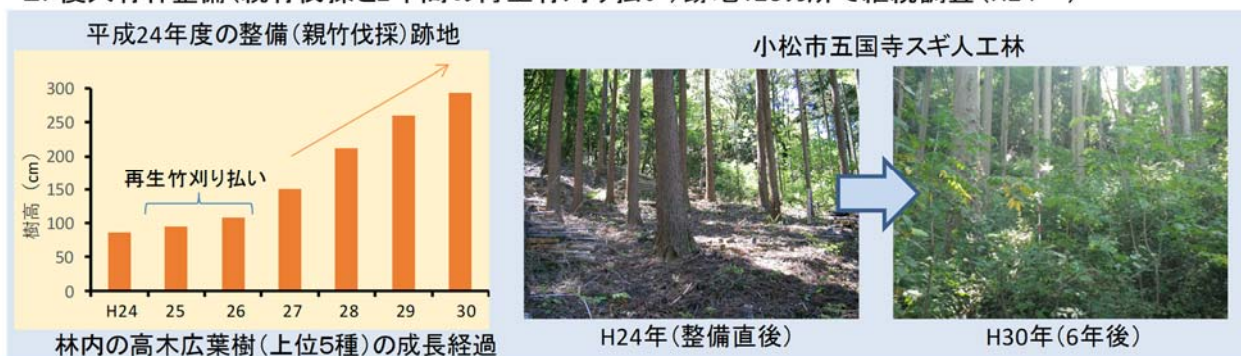
強度間伐を実施した人工林の40箇所と、侵入竹の除去を実施した人工林の20箇所において調査固定枠（10m×10m）を設置し、天然更新による高木性広葉樹の生育状況を調査したところ、スギ林、アテ・ヒノキ林それぞれにおいて、強度間伐の実施後12年間で、樹高が伸長し、針広混交林化が進んでいる傾向が認められた。

また、侵入竹の除去を実施した人工林においても、実施後6年間で針広混交林化が進んでいる傾向が認められた。

1. 手入れ不足人工林の強度間伐（本数間伐率40%以上）跡地：40カ所で継続調査（H20～）



2. 侵入竹林整備（親竹伐採と2年間の再生竹刈り払い）跡地：20カ所で継続調査（H24～）



強度間伐後に更新した主な高木性広葉樹

〈間伐直後に多くみられた広葉樹〉



カラスザンショウ



ネムノキ



アカメガシワ

〈10年後に多くみられた広葉樹〉



ホオノキ



コシアブラ



ク リ

侵入竹の除去後に多く見られた広葉樹



カラスザンショウ



ネムノキ



ヤマザクラ



ホオノキ



シロダモ



ウラジログシ

強度間伐林も侵入竹林整備地においても、それぞれの標高域に応じ、多くの高木性広葉樹が生育している。

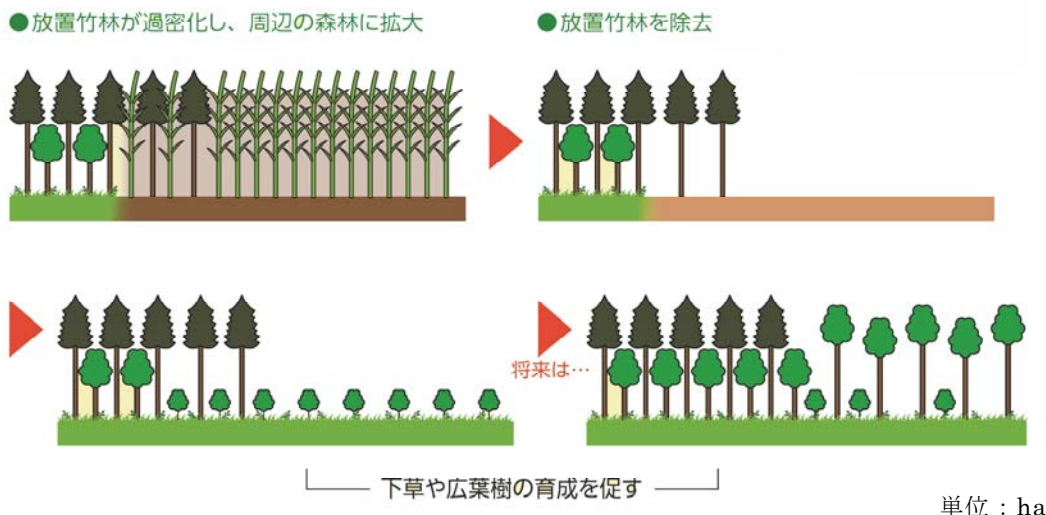
両者の更新状況の傾向は類似しており、間伐または整備直後にはカラスザンショウやアカメガシワなど先駆性の樹種が優占していたのに対し、現在はヤマザクラやホオノキなど周辺広葉樹林の構成する種の優占が高まりつつある。

また、比較的低い標高域にある侵入竹林整備地ではシロダモやウラジログシなども生育している。

(2) 放置竹林の除去等の整備計画と実績

竹林はタケノコや竹材加工品の資材等の生産のため、県内各地で整備・管理されてきましたが、近年、安価な輸入タケノコや竹材の代替品の増加に伴い、管理されなくなった竹林（放置竹林）が増加し、周辺の森林に侵入・繁茂しており、森林の公益的機能の低下をもたらすことが懸念されている。

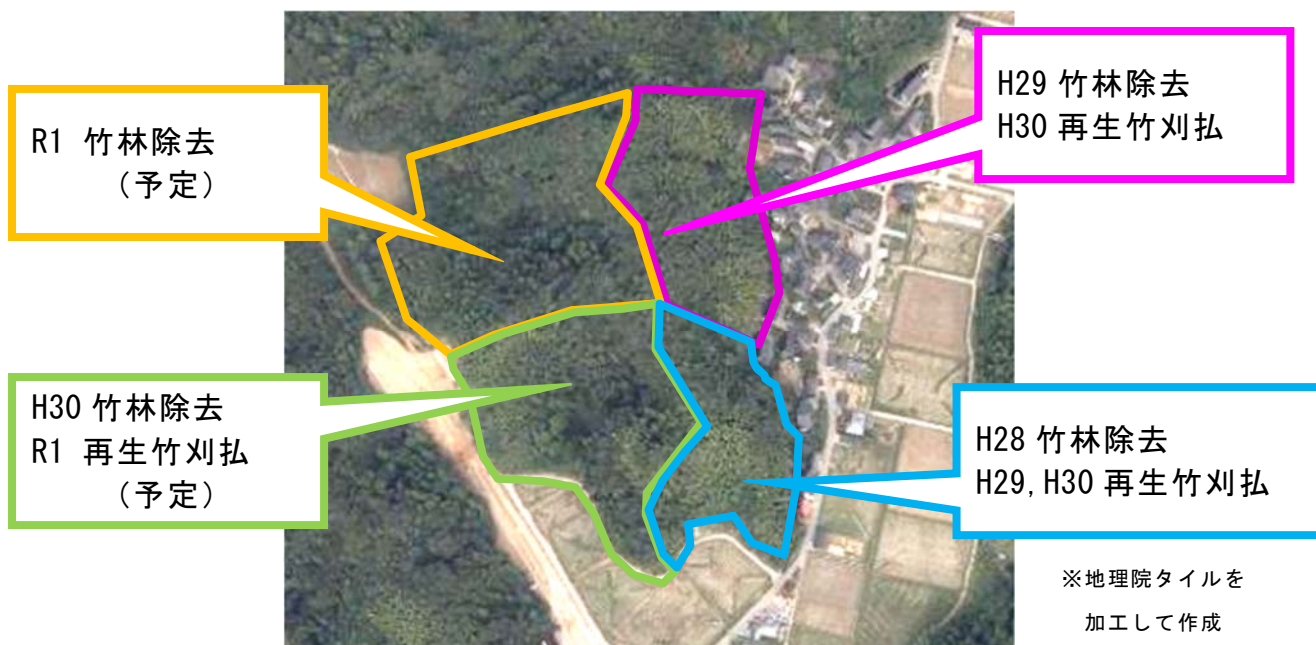
このため、これらの放置竹林を除去し、健全な広葉樹林へ誘導。



項目		第3期					計
		H29	H30	R1	R2	R3	
放置竹林の除去	計画	120	120	120	120	120	600
	実績	121	120				241

※H30 実績は見込

■放置竹林除去の実施状況（かほく市多田 地内）



<H28～30 年度における放置竹林除去の実施状況>

OH28



OH29



OH30



<再生竹刈払実施状況>

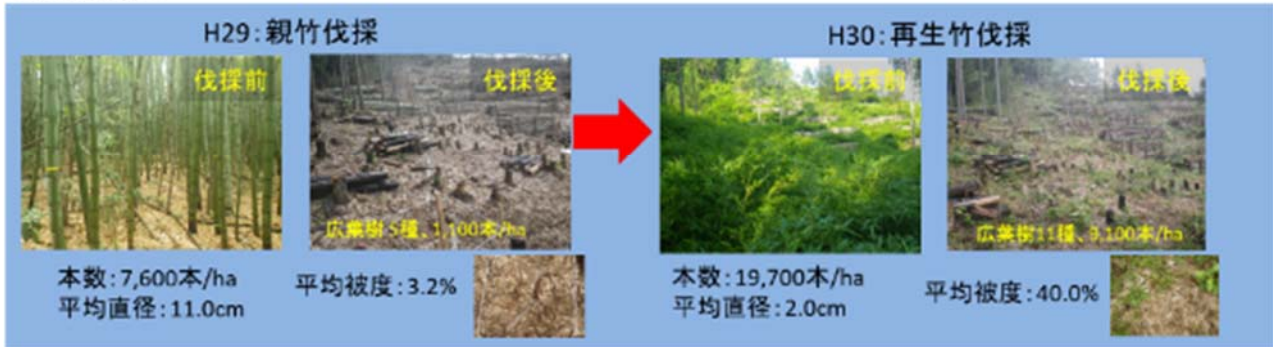
OH30



■ 林業試験場によるモニタリング結果

県内 20 カ所の放置竹林整備地で再生竹の繁茂と植生の回復状況の調査を実施したところ、高木性広葉樹の稚樹が本数、種数ともに増加する傾向が認められた。

◎能登町猪平



◎津幡町浅田



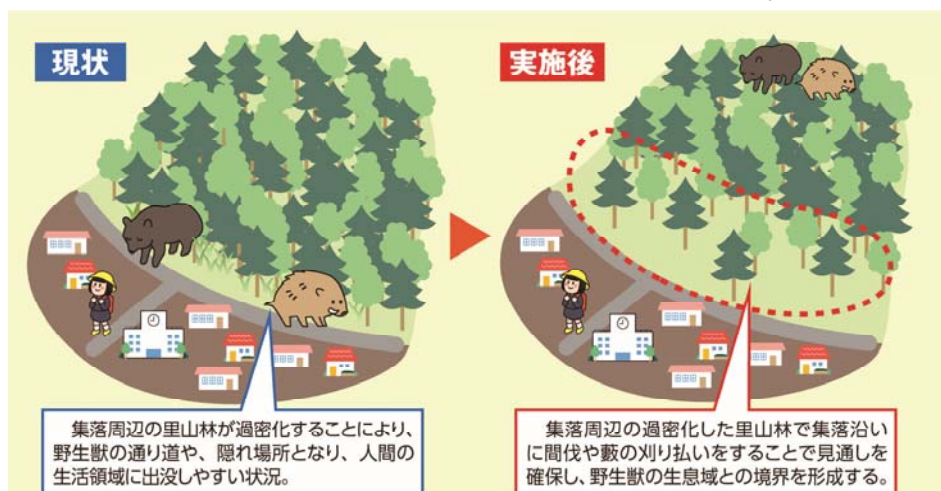
放置竹林整備地に更新した広葉樹の種類は、強度間伐林や侵入竹林整備地と同様に多くの広葉樹が更新し、構成する種も類似している。

整備した翌年の H30 には、ほとんどの整備地でカラスザンショウやアカメガシワなど先駆性樹種が優占している。

(3) 緩衝帯の整備計画と実績

近年、集落周辺の里山林が、生活様式の変化等により利用されなくなったことで過密化し、クマやイノシシ等の隠れ場所になるなど、野生獣の生息域と集落との緩衝域としての機能が低下し、私たちの安心・安全な生活環境への大きな脅威となっている。

このため、藪の刈払いなどで森林の見通しを良くし、野生獣の生息域と集落との境界を形成する取り組み（緩衝帯整備）を実施。



単位：ha

項目		第3期					
		H29	H30	R1	R2	R3	計
緩衝帯の整備	計画	60	60	60	60	60	300
	実績	64	57				121

※H29は12地区、H30は10地区で実施

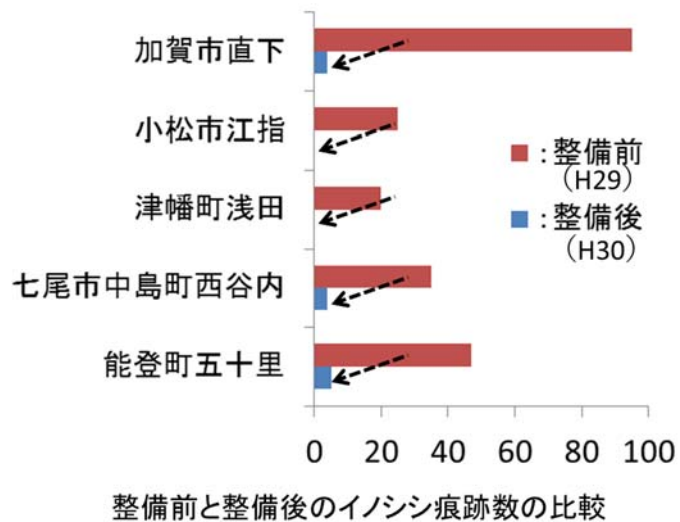
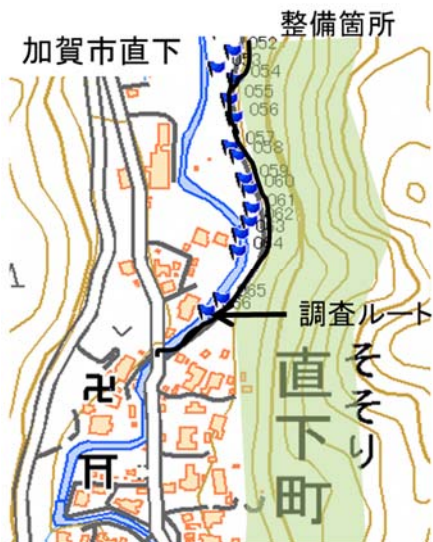
■ 緩衝帯整備の実施状況（七尾市中島町西谷内地内）



■ 林業試験場によるモニタリング結果

1. 痕跡調査

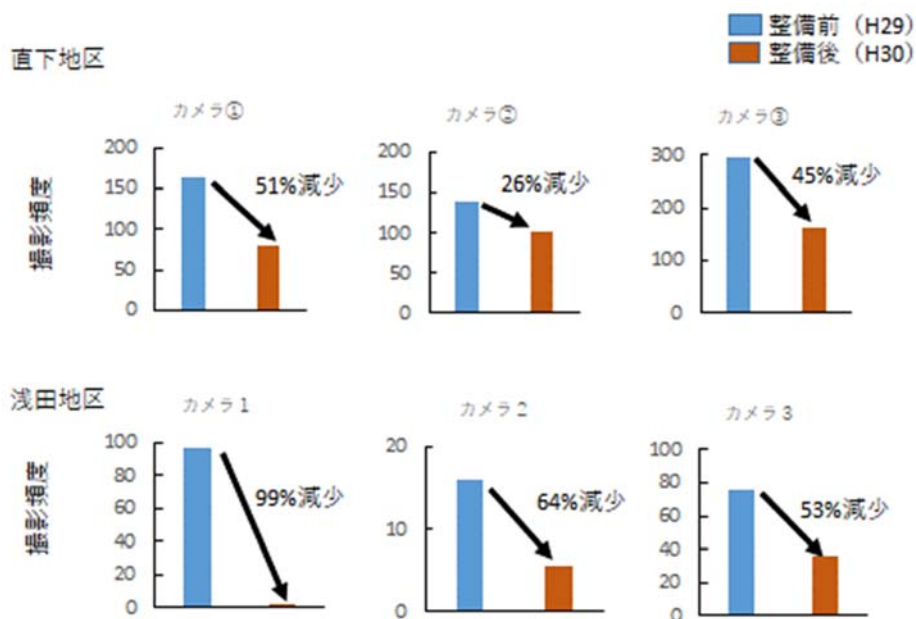
県内5地区において、集落と緩衝帯整備森林との間に、約1kmの調査ルートを設置し、イノシシの痕跡（ケモノ道、足跡、掘り返し、食害痕、落石など）の位置と数を調査し、整備前（H29）と整備後（H30）の春時期の痕跡について比較したところ、整備後のイノシシが出現した痕跡数は、整備前よりも減少する傾向が認められた。



2. カメラ調査

緩衝帯整備の効果を明らかにするために、2地区に自動撮影カメラを3台ずつ通年設置し、イノシシの出没状況を調査した。

整備前と比較して整備後にイノシシの撮影頻度が低下した。



緩衝帯整備後の5～9月のイノシシ撮影頻度 (枚数/100日) の変化

3. アンケート調査

集落住民へのアンケートを行ったところ、緩衝帯整備により見通しや景観が改善された、整備した箇所でイノシシの出没が減った、という声が寄せられた。

また、維持管理に関しては、地区に応じた体制や創意工夫で維持管理を行っている事例がある。

七尾市中島町西谷内地区では、多面的機能支払交付金などの制度の活用や、県の「いしかわ農村ボランティア」の協力を得て、設置した緩衝帯の草刈り等を実施しており（写真上）、能登町五十里地区では、農業安全課の被害対策研修会等で学んだ手法を地域に生かし、緩衝帯に電気柵を設置して緩衝帯と電気柵をセットで管理している（写真下）。

イノシシの有害捕獲にも積極的に取り組んでおり、いろいろな仕組みを上手く取り入れた取り組みの推進が重要と考えられる。



農村ボランティアによる緩衝帯の草刈り
(七尾市中島町西谷内地区)



緩衝帯に設置した電気柵
(能登町五十里地区)

H29実施集落アンケート結果(緩衝帯整備に関する意見)

- ・(集落を囲むように緩衝帯に電気柵を設置した地区において) 個々の(電気柵の)管理が不要になり感謝しています。
- ・集落全戸でイノシシに関心を持つことができた。今後は捕獲に全力で取り組みたい。
- ・今後も緩衝帯整備を続けてほしい。
- ・整備を実施していただいたことにより野生獣の出現が減りました。
- ・集落が明るくなった。
- ・安心して通学、散歩等ができるようになりました。ありがとうございました。
- ・今回だけでなく、少なくとも5年以内に、町内他区域も整備を行ってほしい。
- ・景観がすっきりして、とても気持ちが良い。作業を見ていて、少人数にもかかわらず、手際よく、きれいに早く行っていくので、頼しく感じた。
- ・精神的に安心。

(参考) 安定的な雇用の確保及び経済波及効果について

いしかわ森林環境基金を活用した森林整備により、平成30年度は15,889人・日の雇用創出効果があったと試算され、雇用人数に換算すると、64人の雇用に貢献したと試算された。

いしかわ森林環境基金事業による雇用日数・人数(推計)

年度	H30
雇用日数	15,889
雇用人数	64

※強度間伐：1ha当たり12人・日の雇用として試算
 竹の除去：1ha当たり60人・日の雇用として試算
 再生竹の刈払い：1ha当たり8人・日の雇用として試算
 放置竹林の除去：1ha当たり77人・日の雇用として試算
 緩衝帯整備：1ha当たり17人・日の雇用として試算

県が公表している「平成23(2011)年石川県産業連関表 経済波及効果簡易分析ツール」を用いて算出したところ、森林整備事業の経済波及効果は約1.29倍で、自家輸送や機械修理への波及効果が大きいと試算された。

いしかわ森林環境基金事業ハード事業による経済波及効果(試算)

項目	事業費 (百万円)		総合波及効果 (百万円)	経済波及倍率(倍) 対事業費
	国庫	環境税		
H30森林整備事業	468	143	325	1.29

II 普及啓発事業

「森林や木材利用に対する理解の増進」と「県民参加の森づくりの推進」を2本柱として、他部局とも連携しつつ、施策を展開。

■平成30年度 いしかわ森林環境基金 普及啓発事業一覧

(単位：千円)

	事業名等	事業概要	予算額	決算額
森林や木材利用の増進に対する	いしかわ森林環境評価委員会開催	税の使途説明及び検証のため、第三者からなる評価委員会を開催(委員12名)	600	469
	いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの作成・配布や、イベント、のぼり旗、成果を紹介する映像や広報誌等による普及広報	7,000	6,437
	いしかわ森林環境功労者表彰	県内での森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰	120	77
	いしかわ森林環境実感ツアー	親子や一般県民、小学生を対象とした、手入れ不足の整備状況等の現地を見学するバスツアーの開催	2,900	2,900
	木に親しむまちづくり推進事業	建築士等を対象に、新たな建築資材(CLT等)や最新の木造建築に関する工法、県産材活用例等を紹介する講習会を開催	2,000	2,000
	森林への理解を育む木育推進事業	保育士等を対象に、子どもたちへ木の大切さを伝えるセミナーや、遊びと学びを組み合わせた実演会を開催	2,000	2,620
県民参加の森づくり推進	こども森の恵み推進事業	次世代を担う子供達を対象とした森林環境教育や体験活動を実施するNPO等への支援	3,000	3,000
	いしかわの森づくり推進月間事業	毎月10月の推進月間において、県民が参加する森づくりイベントを開催	2,600	2,600
	企業の森づくり推進事業	企業に対する説明会やフィールドの幹旋	1,000	700
	いしかわ身近な森保全事業	里山林等において地域住民等と協働して行う森林整備や木材等の利用活動への支援	5,000	5,000
	森づくりボランティア推進事業【生活環境部】	里山等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等への支援	3,700	3,700
	里山子ども園推進事業【生活環境部】	里山を活用したもりの保育園のモデルプログラムの企画実施、保育士等の体験会実施	3,000	3,000
	いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業【生活環境部】	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行	1,000	790
	いしかわ版CO2削減活動支援事業【生活環境部】	企業への森林保全活動(CO2削減活動)に対する理解促進	600	228
	いしかわ景観キッズプログラムの開催【土木部】	小学生を対象に、里山景観に関心を抱き、大切さを学習する体験教室を開催	800	800

1 森林や木材利用に対する理解の増進

(1) いしかわ森林環境基金評価委員会開催 (事業費：469千円)

事業の成果を検証・評価するとともに、事業の見直しの必要性について検討するため、3回開催した。

(2) いしかわの森づくり普及広報推進事業 (事業費：6,437千円)

県民の理解を増進するための普及広報を継続実施した。

- ・新聞に事業成果などを掲載
- ・パンフレット等の作成・配布
- ・農林漁業まつり、環境フェアなど各種イベントにおけるPRの実施 など

新聞広告 (8/26(日)、9/23(日)、3/24(日)北國新聞及び北陸中日新聞掲載)



いしかわ森林環境税パンフレット



いしかわの里山里海展（8/25(土)、26(日)）



農林漁業まつり（10/20(土)、21(日)）



いしかわ環境基金事業
事例発表会・事業説明会（3/27(水)）

新聞広告やパンフレットの作成により、県民に対し森林の役割や森林環境税の意義を周知するとともに、各種イベントにおいて森林や木材利用に対する理解を深めるための取り組みを実施。

取り組みの結果、普及啓発事業全体の参加人数が 16,691 人とこれまでで最多になるなど、県民の森林・木材利用に対する理解の増進や県民参加の森づくりの推進が図られた。

(3) いしかわ森林環境功労者の表彰（事業費：77千円）

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰した。

区分	H30
表彰者数	3
功労者	・加賀東芝エレクトロニクス株式会社 ・四十万木の駅プロジェクト実行委員会 ・石川県立穴水高等学校



県民みどりの祭典にて表彰（津幡町）

【主な功績】

受賞者名	区分	主な功績
加賀東芝エレクトロニクス株式会社	企業	平成25年度より辰口丘陵公園において毎回100名程度のボランティアによる森づくりを行ってきた。活動開始以降、延べ1,000名以上の参加を得ており、里山整備を継続した結果、希少植物が増えるなど、企業による森づくり活動の模範となっている。
四十万木の駅プロジェクト実行委員会	団体	平成26年度より地域の森林資源の有効活用を目的として、林地に残された間伐材や竹材を引き取り、薪や竹チップにして利用するなど、未利用資源のエネルギー利用や森林資源の利活用の促進に取り組んでいる。
石川県立穴水高等学校	学校	平成24年度より「のとてまり」「のと115」の栽培に取り組むとともに、県有林や穴水町有林において、しいたけの原木として利用されるコナラの植樹活動行うなど、森林環境教育の実践を実践するとともに、能登の里山保全に寄与している。

(4) いしかわ森林環境実感ツアー（事業費：2,900千円）

一般県民や親子、小学生を対象に森林整備状況や木材産業の現場を見学するバスツアーを開催した。

○森林環境実感ツアー（親子向け）

開催日	内容	場所	参加人数
8/18(土)	利用間伐実施現場の見学、侵入竹整備地の見学、木材加工施設の見学等	輪島市 能登町	18名
8/25(土)	利用間伐実施現場の見学、侵入竹整備地の見学、県産材住宅の見学等	白山市	31名
		計	49名



高性能林業機械による伐採の見学（白山市）



木材加工施設の見学（輪島市）

【参加者の声（親子向けツアー）】

- ・木材加工施設で、たくさん木に触れたことがとても楽しかった。（子ども）
- ・「木」ってとっても身近にあるけど、近くにありすぎて当たり前になって大切な物、大事な物という認識が薄れてしまっていたように思いました。改めて、「木」のすごさ、「木」っていいなと思いました。次世代も自然を大切にしてほしいです。（親）

○森林環境実感ツアー（一般向け）

開催日	内容	場所	参加人数
9/29(土)	緩衝帯整備地の見学、尾小屋鉱山資料館の見学、木材市場・木材加工施設の見学等	小松市	30名
9/29(土)	利用間伐実施現場の見学、侵入竹整備地の見学、不燃木材加工工場の見学等	志賀町	20名
		計	50名



緩衝帯整備地を見学（小松市）



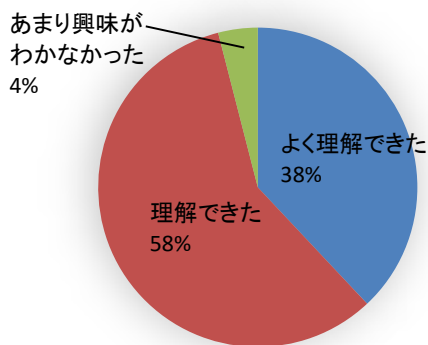
木材不燃加工工場を見学（志賀町）

【参加者の声（一般向けツアー）】

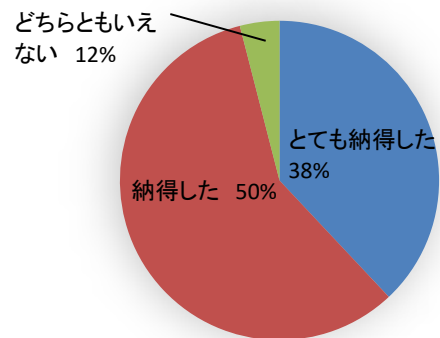
- ・材木から商品になる工程が見たくなった。消費者としてできることもあると思うので。
- ・石川県の林業に関する事業を見学できてとても勉強になりました。
- ・森林はどこにでもあると思っていましたが、まめに手入れをしないと利用出来る良い木が育たないと分かりました。

【一般向けツアー参加者・親子向けツアー参加者（大人）へのアンケート】

Q：森林・林業や森林の意義について理解できましたか？



Q：本ツアーに参加して、森林環境税の活用方法について、どのように評価しますか？



参加者へのアンケートの結果、9割以上が森林・林業の意義について理解できたと回答し、8割以上が森林環境税の活用方法について納得したと回答。県民の森林・林業に対する理解が増進したと考えられ、森林環境税の活用方法についても評価が得られた。

○森林環境実感ツアー（こども向け）

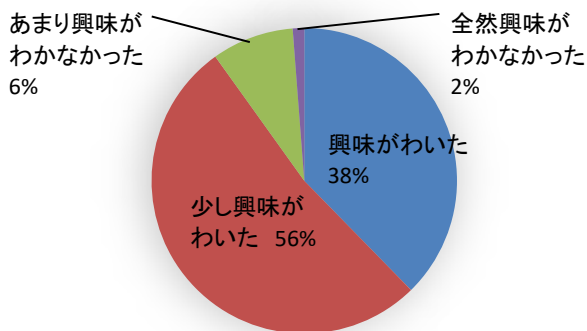
開催日	参加学校	参加人数
10/4(木)	御園小学校	126
10/16(火)	松陽小学校	41
10/17(水),25(木),26(金)	朝日小学校	230
10/30(火)	蓮台寺小学校	24
11/7(水)	金石・浅野川小学校	120
11/9(金)	錦城・十一屋・馬場・英田小学校	206
計	10校	747



間伐作業を見学（白山市）

【子どもたちへのアンケート】

Q：森林・林業について興味がわきましたか？

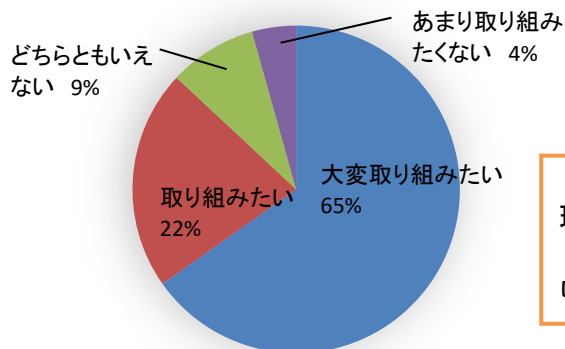


木材加工工場を見学（小松市）

子どもたちへのアンケートの結果、実感ツアーを通して、9割以上が森林や林業について興味がわいたと回答。
次代を担う子どもたちの森林・林業への理解が増進したと考えられる。

【先生へのアンケート】

Q：今後もこのような森林環境教育や体験学習に取り組んでいきたいですか？



先生へのアンケートの結果、8割以上が今後も森林環境教育や体験学習に取り組んでいきたいと回答。
森林や林業への理解増進に取り組む人材や環境づくりが進んだと考えられる。

【児童や先生の声】

- ・このツアーを通じて、森林は人に必要な存在で、自然にめぐみを与えてくれることが分かった。
- ・間伐現場の木を切るところについて、迫力があってすごかったから心に残った。
- ・森の中の木を実際に切っていたところや、ハーベスターの体験が楽しかった。
- ・木を切る人達や機械を動かす人達の大変さが分かった。色々な工場などでどのような機械がどう使われているのかも分かった。
- ・切った木をすぐにチップにしたり、木の中にある水分を抜くための大きな乾燥機があったりして、様々な工夫があるんだと思った。
- ・木はただ単に植えているのではなく、使い道を考えたり、日光がちゃんと当たるようにするなど工夫していることが分かった。
- ・学校では緑の募金に今年度取り組み、森林が減っていくことで人々にもたらす影響を学習したばかりです。3学期の学習の前に体験学習をしたことにより、より身近なものとして感じる事ができると感じました。（先生）
- ・山の環境については、道路を通る時にちらっと見かける程度しか身近に体験する機会がなかったので、今回のツアーは大人にとっても貴重な体験でした。子どもたちも、この体験でこれから山に係わる意識も変わっていくと思います。（先生）

(5) 木に親しむまちづくり推進事業（事業費：2,000千円）

県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深める取組を実施した。

開催日	講習会題目	開催場所	講習会内容	参加人数
8/22(水)	「県産材を知る」	(株)シモアラ、かが森林組合那谷工場ほか	木材の伐採、搬出、運搬、木材市場に至るまでの流れを体感	33
9/15(土)	「木造耐火のすすめ」 「近年の法令改正が可能とする木造を見せる防火設計」	ITビジネスプラザ武蔵	木造耐火建築物に必要とされる性能と各種耐火構造の解説と木造耐火建築物の現状	46
10/27(土)	「木と鉄のハイブリッド構造」	金沢工業大学白山麓キャンパス	木と鉄のハイブリッド構造を採用したキャンパス見学可能性や最新の構造設計を学ぶ	57
11/10(土)	「中大規模木造建築物の構造設計」	地場産業振興センター	製材・木質材料の基礎知識、接合部の基礎知識と構造計算	51
3/2(土)	「実例から見た木造建築の工法別コスト比較」	能美市辰口福祉会館	中大規模建築の工法別の調書・短所及びコスト比較	40
合計		全5回		227



第1回「県産材を知る」木材市場見学状況
(かが森林組合那谷工場)



第3回「木と鉄のハイブリッド構造」講習会実施状況
(金沢工業大学白山麓キャンパス)

参加者からは「新しい木の使い方を色々考えられてよかった」、「木造建築についてよく理解できた」など好評であり、木造建築を行う建築士等に対する効果的な取組として評価が得られた。

(6) 森林への理解を育む木育推進事業（事業費：2,620千円）

幼児から大人までが木に親しみ、木の良さを学ぶとともに、森林への理解を育むことを目的として、「木育」を学ぶセミナーの開催や「木育」出前講座を実施した。

○木育セミナーの開催

開催日	場所	内容	参加者数
7/21(土)	石川県文教会館401,402会議室 (金沢市尾山町10-5)	講座1: 子どもの遊びと木育実践① 講座2: ワークショップ①(イス、箸の製作)	25名
9/1(土)	石川県森林公園インフォメーションセンター (河北郡津幡町字津端E-14)	講座1: 日々の保育と自然(森)をつなぐ 講座2: 木育演習①(森・木を保育に持ち込む、絵本と森を繋ぐ)	30名
11/10(土)	金沢大学角間の里 (金沢市角間町7)	講座1: 石川県らしい木育って(事例紹介とフィールドワーク) 講座2: ワークショップ②(身近な木を使ったものづくり)	32名
12/16(日)	石川県文教会館401,402会議室他 (金沢市尾山町10-5)	講座1: 基調講演(木育による人づくり、地域づくり) 講座2: ワークショップ(日々の暮らし、教育活動と木育、その効果)	105名



第2回木育セミナー

(施設に森を持ち込む体験プログラム)



第3回木育セミナー

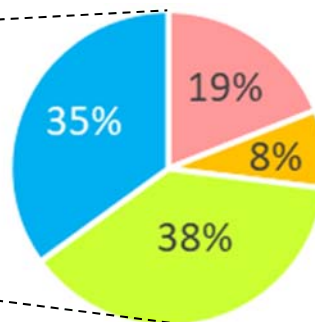
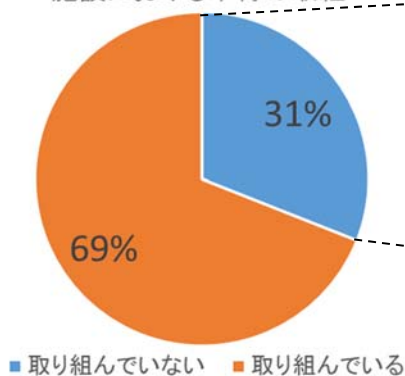
(クルミを使った木製品製作)

【参加者へのアンケート】

Q1: 所属する施設で木育に取り組んでいるか？

Q2: (Q1で取り組んでいないと回答した方に対し) 新たに取り組みたい内容は何か？

施設における木育の取組



【参加者の声】

- ・木材加工は子供には難しい・危険だという考え方が変わりました。
- ・実演があり、楽しく体験できました。体験することで、感じることや、木に興味を持つことができました。
- ・環境が揃っていないと木育は出来ないと思っていましたが、沢山のヒントをいただきました。
- ・すぐに実践できる内容で、自分の引き出しが増えたように感じた。身近にある自然のものの再確認をやってみたい。
- ・大人の方も、改めて木のことを考えたり知ったりすることで、興味関心が広がりました。
- ・楽しんで、子どもたちが身近な木に触れ合う機会を作っていければ良いと感じた。

参加者へのアンケートの結果、これまで木育に取り組んでいなかった施設においても木製品の仕様や森・木にふれあう取組を行いたいと回答。

幼い子どもたちが森や木にふれあうことができる環境づくりや人材の育成が進んだと考えられる。

○木育出前講座の開催

開催日	場所	内容	参加者数
8/7(火)	中能登町旧久江小学校 (鹿島郡中能登町久江木部30)	普及指導員による「木のお話」 木工作教室(県産杉)・大工体験(かなな削り)	児童37名 大人30名
8/20(月)	川北町役場文化センター (能美郡川北町壱ツ屋174)	普及指導員による「木のお話」 木工作教室(県産杉)・大工体験(かなな削り)	児童20名
9/13(木)	学校法人星名学園 木津幼稚園 (かほく市木津二132番甲地他)	4歳児:ミニ運動会、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児48名
10/13(土)	邑知保育園 (羽咋市飯山町ト8番地1)	3歳児:紙芝居の読み聞かせ、木のおもちゃ広場体験 保護者:木育インストラクターの話	幼児23名 大人23名
11/2(金)	山王こども園 (金沢市山王町2丁目85番地)	4・5歳児:ミニ運動会、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児42名
11/15(木)	野町保育園 (金沢市野町3-24-32)	4・5歳児:木工作、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児39名
1/17(木)	美郷保育園 (野々市市郷町1丁目102番地)	4・5歳児:ミニ運動会、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児43名
1/30(水)	あおば保育園 (小松市沖町レ39)	5歳児:木工作、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児32名
2/14(木)	かわちこども園 (白山市河内町福岡88)	3~5歳児:ミニ運動会、紙芝居の読み聞かせ、ダンス	幼児25名



あおば保育園

(木工作教室)

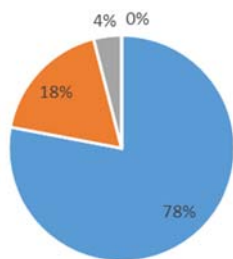


山王こども園

(里山ウッディ君とのダンス)

【保護者、先生へのアンケート】

Q: 子どもが木への親しみを持たたか?



■ そう思う ■ 少しそう思う
■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

保護者、先生へのアンケートの結果、9割以上が「子どもが木への親しみが持てた」と回答。

子ども、保護者、先生の木材利用への理解が増進したと考えられる。

【参加した先生の声】

- ・工作の際に、木の香りや感触を楽しんでいたため、園内で木材に触れることを広めたいと思う。(保育士)
- ・子どもの成長、特に心の育ちに大切な役割を果たしてくれると思う。(園長)
- ・この活動を広めていくと、木育を知った人が、さらに木育を広げていってくれると思う。(保育士)
- ・木のおいや感触などでリラックスできるし、指先・手先を使う作業も、成長過程において良いと思う。(保育士)
- ・大人の方も、改めて木のことを考えたり知ったりすることで、興味関心が広がりました。(園長)

2 県民参加の森づくりの推進

(1) こども森の恵み推進事業（事業費：3,000千円）

子ども達を対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO等18団体を支援した。

区分	H30
団体数	18団体
参加者数	6,112人



（しいたけ植菌体験・白山市）



（森の役割学習・七尾市）

奥能登地区から南加賀地区まで、広く県内のNPO団体や保育所等の団体が行う活動に支援。

平成30年度は6,112人の子どもたちが森林体験活動等を経験し、次代を担う子どもたちの森林・林業への理解が増進した。

(2) いしかわの森づくり推進月間事業（事業費：2,100千円）

毎年10月を「いしかわ森づくり推進月間」、「県産材利用推進月間」と定め、県下6地区で県民木づかい推進・森づくり大会を実施した。

開催日	開催テーマ	開催場所	大会内容	参加人数
10/14(日)	小舞子 海岸の森づくり	白山市湊町 (小舞子公園)	下刈り、除伐、ベンチ作り	39
10/14(日)	能登の里山 広葉樹の森づくり&木の楽器づくり	輪島市大沢町 (県有林)	植樹、リュールシロフォン作り	45
10/28(日)	憩いの森「秋の祭典」	小松市吉竹町 (憩いの森)	保育、木工工作、苗木配布	307
10/28(日)	権現森 海岸の海づくり	河北郡内灘町宮坂 (権現森公園)	植樹、下刈り	36
10/30(火)	海の森づくりと木の公園づくり	七尾市能登島町向田 (海岸林)	植樹、樹木名プレート設置	55
11/25(日)	木と火と人	金沢市三谷 (さとやま交流広場)	県産材の丸太を燃料としたポップコーンづくり	1,000
合計		6地区		1,482



海岸林における植樹（七尾市）



マツ林内のベンチ作り（白山市）

平成 30 年度より、10 月を従来からの「森づくり推進月間」に加え、「県産材利用推進月間」と定められたことから、県内 6 地区で森づくり活動及び木づかい活動を実施。

特に、金沢市内での活動には約 1,000 人が参加するなど、県内の森づくり・木づかい活動への機運が高まった。

(3) 企業の森づくり推進事業（事業費：700 千円）

企業による森づくり活動を推進するため、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を行った。

区分	H30実績
協定締結企業数(新規)	5企業
締結企業数	57企業
活動フィールド	63地区
森づくり活動参加者数	3,558人



下刈り作業の様子（中能登町・石動山）

新たに5企業の協定締結があり平成 30 年度は 3,558 人が活動に参加した。企業の協定締結数は全国でも3番目に位置しており、参加者の森林と木材利用に対する理解が増進するとともに、県民参加の森づくりの主体の育成が進んだ。

(4) いしかわ身近な森保全事業（事業費：5,000 千円）

地域住民と協働で集落周辺の放置された森林の整備・保全・活用を図る 2 市の取組を支援した。

事業主体	事業内容	実施場所	森林整備等面積
小松市	地域住民と協働した森林整備活動 (下草刈り、除間伐)	小松市(井口町、吉竹町)	1.0ha
金沢市	地域住民・小学校と協働した森林整備活動 (広葉樹の整理伐)	金沢市(岩出町、堅田町、深谷町、 不動寺町)	1.2ha
	地域住民と協働した森林整備活動 (広葉樹の整理)	金沢市(上辰巳町)	0.5ha
	地域住民・小学校と協働した森林整備活動 (下草刈り)	金沢市(宮野町)	0.5ha
合計			3.2ha



のこぎりの使い方説明（金沢市）



伐採した広葉樹の利用（金沢市）

2市が実施する里山林の整備等の活動に対し助成を行い、平成 30 年度は 304 人の地域住民や小学生が参加し、3.4ha の森林整備が行われるなど、県民参加による森づくりが進んだ。

（5）森づくりボランティア推進事業（事業費：3,700 千円）

自主的に森づくり活動等を行う NPO 等 14 団体へ支援した。
（生活環境部温暖化・里山対策室）

区分	H30
団体数	14団体
参加者数	1493人
森林整備等面積	28.8ha



（遊歩道整理・金沢市）



（下刈り・津幡町）

県内の NPO や地域住民のボランティア団体等が自主的に行う里山林の保全や利活用等の活動に対し助成を行い、平成 30 年度は 28.8ha の森林整備が行われ、県民参加による森林整備が進んだ。

(6) 里山子ども園推進事業（事業費：3,000千円）

県内の保育園・幼稚園を対象に里山の自然体験プログラムを計 59 回実施した。（生活環境部自然環境課）

H30年度実績
計59回、園児1,447名〔53園〕参加
〈実施場所〉 夕日寺県民自然園(金沢市) 石川県森林公園(津幡町) 木場潟中央園地(小松市) 和田山・末寺山史跡公園(能美市) 橋立自然公園(加賀市) 吉岡園地(白山市) ちびっ子自然センター(羽咋市) 希望の丘公園(七尾市) 健康の森総合交流センター(輪島市)



吉岡園地（白山市）

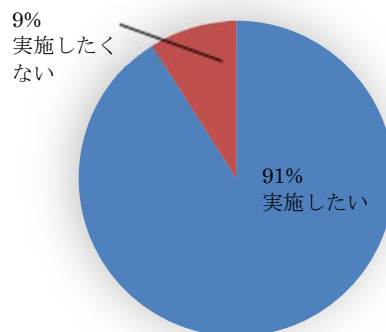


和田山・末寺山史跡公園（能美市）

【先生へのアンケート】

Q：今後、園独自でこのような自然体験活動を実施したいと思いますか？

平成 30 年度は計 59 回のプログラム実施し、1,447 名の子どもたちが自然体験プログラムに参加した。
先生へのアンケートでは、9割以上が今後、園独自で自然体験活動を実施したいと回答があり、幼少期からの自然とのふれあいが推進できたと考えられる。



(7) 石川の森整備活動 CO₂ 吸収量認証事業（事業費：790千円）

企業の森づくり活動を推進するため、森林整備活動に対する二酸化炭素の吸収量証書を 18 企業（うち新規 1）に交付した。

(生活環境部温暖化・里山対策室)

団体名	認定吸収量 (t-CO ₂)
のと共栄信用金庫	8.3
石川フォレストサポーター会	3.4
公益社団法人石川の森づくり推進協会	9.0
株式会社北國銀行	1.1
富士通株式会社 北陸支社	2.2
TOTO株式会社 北陸支社	2.0
鶴来信用金庫	0.3
株式会社石川コンピュータ・センター	1.7
株式会社丸中組	1.3
株式会社ホクコク地水	1.5
コマニー株式会社	0.4
株式会社エオネックス	0.9
大阪有機化学工業株式会社	1.5
NPO法人世界の砂漠を緑で包む会	7.3
「風土記の社」づくりの会	1.5
株式会社ロードマネージメント	1.2
有限会社本田造園土木	0.8
※株式会社丸西組	0.9
合計 18団体	45.3

※は新規



森林整備活動 CO₂ 吸収証書交付式

企業等が社会貢献活動として森林整備活動を実施した際に、その活動の社会に対する貢献度を二酸化炭素吸収量として認証。

平成 30 年度は 18 団体を認証し、企業等が行う森づくり活動を推進した。

(8) いしかわ版CO2削減活動支援事業（事業費：228千円）

企業等から協賛を募り、NPOやボランティア団体等の営利を目的としない団体が行う森林保全活動を支援した。（生活環境部温暖化・里山対策室）



年度	H30
支援件数	14団体



植栽地の下刈：七尾市



植栽地の下刈：七尾市

協賛企業からは、森林保全の応援ができる取り組みなので、理解が得やすいとの声もあり、多様な主体による県民参加の森づくりが進んだと考えられる。

(9) いしかわ景観キッズプログラムの開催（事業費：800千円）

子ども達を対象に里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する体験学習を3回実施した。（土木部都市計画課）

日時	参加学校	参加人数
6/18(月)	金沢市立馬場小学校	36名
6/25(月)	金沢市立馬場小学校	36名
10/17(水)	加賀市立片山津小学校	42名
	計(のべ参加人数)	114名

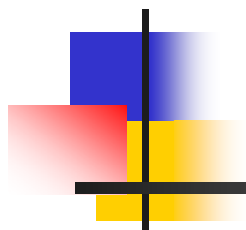


金沢市立馬場小学校

(こなん水辺公園・金沢市)

日頃あまり意識することのない身近な地域について、町歩きや写真撮影を通して、風景や景観に対する理解が進んだ。

いしかわ森林環境基金事業の 令和元年度の実施内容



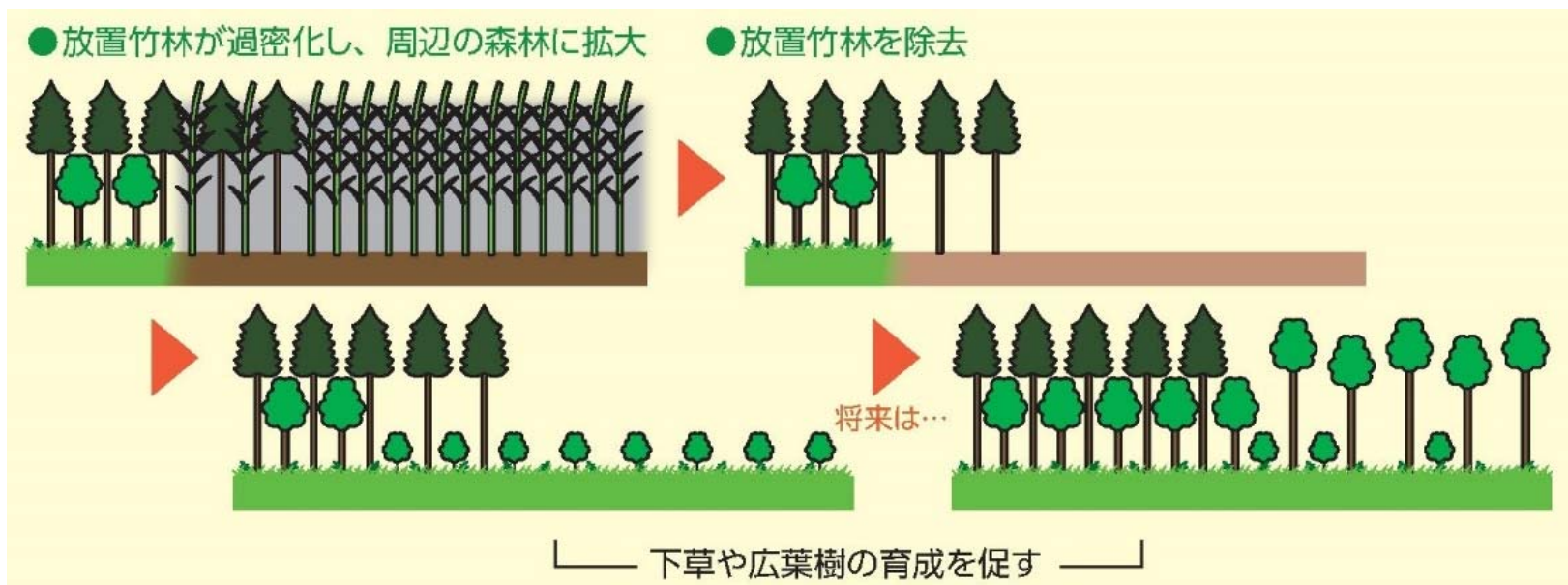
I 森林整備の取組

1 森林の公益的機能の低下をもたらす放置竹林の除去

森林の持つ公益的機能の発揮に支障を来すおそれのある、周辺森林に侵入・繁茂している管理されなくなった竹林の除去を実施します。

令和元年度

項目	計画面積
放置竹林の除去	120ha



2 クマ、イノシシなどの野生獣の出没を抑止するための緩衝帯整備

野生獣の出没を抑止することを目的として、過密化した里山林において森林の見通しを良くするため、立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施します。

令和元年度

項目	計画面積
緩衝帯整備	60ha



Ⅱ 普及啓発の取組

普及啓発事業一覧(令和元年度)

単位:千円

	事業名等	事業概要	予算額
森林や 木材の 利用に 対する	いしかわ森林環境評価委員会開催	税の用途説明及び検証のため、第三者からなる評価委員会を開催(委員12名)	600
	いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの作成・配布や、イベント、のぼり旗、成果を紹介する映像や広報誌等による普及広報	7,000
	いしかわ森林環境功労者表彰	県内での森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰	120
	いしかわ森林環境実感ツアー	親子や一般県民、小学生を対象とした、手入れ不足の整備状況等の現地を見学するバスツアーの開催	2,900
	木に親しむまちづくり推進事業	建築士等を対象に、新たな建築資材(CLT等)や最新の木造建築に関する工法、県産材活用例等を紹介する講習会を開催	2,000
	森林への理解を育む木育推進事業	保育士等を対象に、子どもたちへ木の大切さを伝えるセミナーや、遊びと学びを組み合わせた実演会を開催	2,000
県民 参加の 森づく り推 進	こども森の恵み推進事業	次世代を担う子供達を対象とした森林環境教育や体験活動を実施するNPO等への支援	3,000
	いしかわの森づくり推進月間事業	毎月10月の推進月間において、県民が参加する森づくりイベントを開催	2,600
	企業の森づくり推進事業	企業に対する説明会やフィールドの幹旋	1,000
	いしかわ身近な森保全事業	里山林等において地域住民等と協働して行う森林整備や木材等の利用活動への支援	5,000
	森づくりボランティア推進事業【生活環境部】	里山等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等への支援	3,700
	里山子ども園推進事業【生活環境部】	里山を活用したもりの保育園のモデルプログラムの企画実施、保育士等の体験会実施	3,000
	いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業【生活環境部】	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行	1,000
	いしかわ版CO2削減活動支援事業【生活環境部】	企業への森林保全活動(CO2削減活動)に対する理解促進	600
	いしかわ景観キッズプログラムの開催【土木部】	小学生を対象に、里山景観に関心を抱き、大切さを学習する体験教室を開催	800

Ⅲ 新たな取り組み

手入れ不足人工林の発生を未然に防ぐ県産材利用促進対策

昨年度の「いしかわ森林環境基金評価委員会」最終報告を踏まえ、県産材の利用促進対策を税の新たな使途に加えることとし、県産材の利用促進により、需要を拡大させることで、手入れ不足人工林の発生を未然に防ぎ、森林の持つ公益的な機能の維持増進を図ります。



(新規)いしかわの森で作る住宅推進事業

40,000千円

県産材を使った住宅等を新築・増改築・購入する方への助成により、住宅分野における県産材需要を拡大します。

- 使用量：7m³以上 ⇒ 助成額：10万円
- 使用量：20m³以上 ⇒ 助成額：30万円
- 使用量：25m³以上かつ県産材使用率90%以上 ⇒ 助成額：50万円

助成イメージ

補助金額（定額）



県産材使用量

(新規)民間施設県産材需要創出モデル推進事業 34,000千円

モデル性や普及啓発効果が高く、県産材使用の模範となる民間施設への助成により、非住宅分野における県産材需要を創出します。

○公募の上、県産材使用部分の材料費、工事費の1/2を上限に支援

※使用する材がCLT等の新材材の場合、材料費の3/4、工事費の1/2



対象とする施設のイメージ

(新規)いしかわの木づくり運動推進事業

6,000千円

県産材の利用促進に向けた機運醸成に取り組むことで、県産材需要を押し上げます。

- Japan Home&Building Showを活用した県産材製品のPR

住まいに関する建材・部材・設備・サービスが一堂に会する日本最大級の専門展示会「ふるさと建材・家具見本市」で石川県産材製品をPRすることにより、新規顧客の獲得や販路開拓に取り組みます。



展示会イメージ

- 「いしかわの木づくり表彰」の創設など

住宅や非住宅などの部門ごとに県産材の利用拡大に向けた顕著な功績があった者を表彰することにより、県産材利用の意欲向上に取り組めます。



表彰イメージ

IV 令和元年度 事業計画

いしかわ森林環境基金事業

476,320千円

税 384,320千円

国庫 92,000千円

- 森林整備 337,000千円
 - ・放置竹林の除去等 120ha
 - ・緩衝帯整備 60ha
- 環境林整備事業の推進 2,860千円
 - ・森林所有者との協定締結等について補助
- 環境林モニタリング調査 21,140千円
 - ・森林の機能回復を把握するための調査や施業箇所の環境影響調査(事前調査)

- 新 いしかわの森で作る住宅推進事業 40,000千円
 - ・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成
- 新 民間施設県産材需要創出モデル推進事業 34,000千円
 - ・県産材使用の模範となる民間施設への助成
- 新 いしかわの木づかい運動推進事業 6,000千円
 - ・県産材の利用促進に向けた機運醸成

- 森林や木材利用に対する理解の増進 14,620千円
 - ・普及啓発や情報提供の実施 等
- 県民参加の森づくりの推進 20,700千円
 - ・県民森づくり大会等の開催や子ども達が参加する森林体験活動への支援 等